

NPO法人が空き家再生 建設企業委員会県外視察

橋本正幸議員が所属する市議会建設企業委員会は、このほど広島県尾道市の空き家再生プロジェクト、和歌山市の周辺まちづくり、岡山市の駅前地区の再開発の取組を視察しました。

このうち尾道市では、市内に500軒ほどの空き家がある中、NPO法人が、空き家の再生と地域の再生に取り組んでいます。

坂と路地の町・尾道は、幸いにも空襲を受けなかったため、戦前からの町並みが多く残り、車の入らない傾斜地や路地裏は尾道の地域遺産や観光資源になっている一方、深刻な空き家問題を抱えています。

こうした中、「空き家バンク事業」の取組では、尾道市が10年間運営し10件ほどしか実績を挙げられないま



ま休眠状態にあった事業を、2009年にNPO法人が受託してから2年で35件のマッチングが実現したのことで

2012年にオープンしたゲストハウス「あなごのねどこ」は、奥行40メートルほどの細長い建物ですが、相部屋と個室で8割の稼働で、外国人を含め、年間約6000人が宿泊しているといいます。入口はカフェ兼食堂になっており、明治からの建物を改修し、尾道の路地裏を知ってもらうことも考え細長くしたそうです。

坂の中腹にある「みはらし亭」という宿泊施設は、大通りから曲がりくねった細い道を15分くらい登ったところにあります。老朽化のため、解体されようとしていた建物を買って再生したもので、再生の様子をブログで発信したところ、新聞やテレビで取り上げられ大きな反響を呼んだそうです。

橋本議員は、「上越市での空き家バンク登録件数は11件(6月1日現在)にすぎないことから、こうした尾道市の実績を当市の空き家活用・再生にむけて参考にすべきではないか」と語っています。



1 俵コスト8,000円めざす

農業ICT化、林業の課題、ドローンによる農薬散布など視察

市議会食料農業農村議員連盟は、9日市内の農業法人などの先進的取組を視察しました。

板倉区の高野生産組合では、ICT(情報通信技術)を駆使した農業の機械化に積極的に取り組んでいます。ここでは約50畝の水稲をはじめとして大豆、飼料用米などの生産に取り組み、徹底したコスト削減など農業の効率化に挑戦しています。大型の高効率機械を



言葉が印象的でした。保倉区青野のくびき野森林組合では、管内の森林の厳しい状況を説明していたいただきました。特に受託造林については、国や県の補助事業の導入は、小規模面積では困難な状況で、木材価格の低迷によって森林所有者の関心も薄れている状況にあるとのことでした。

導入しているほか、各機械に搭載したGPSをはじめとした機器によって、リアルタイムで作業の状況を把握し、施肥の誤差もなくするという取組です。こうしたことを通して、コストを1俵8千円程度にすることを目指しているとのことでした。「農業は経験のみではやっていけない時代。作業しながら調査することで、経験に頼らない農業が可能になる」という



同組合では、市単独の国では、森林経営計画を樹立し、集約化を図った上で、搬出間伐を推進しているとのことですが、管内森林の61%にとどまっている組合員所有山林だけでは、集約化が難しく、森林所有者の中には不在者も多いことや世代交代等の影響などによって境界が不明な箇所も多数にのぼっていることが、課題になっているとのことでした。

くは雨のため、散布したのは水でしたが、ほんの数分で20アあまりの田んぼに農薬がくまなく散布される様子に、見学者一同が驚嘆の声をあげていました。

小規模補助事業の創設をとの訴えがありました。吉川区泉では、ドローンによる農薬散布の実演を見学しました。あいに



日本共産党上越市議員団ニュース No. 559 2017年8月20日

- 連絡先 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
- 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
- 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
- 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)